

## もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	情報政策課	氏名	藤原 雄也
派遣先 団体名	NPO法人もりふれ倶楽部		

### ① 研修の日時

- 6月21日(日) 楽山公園再生イベント (楽山公園)
- 7月 7日(火) みーもスクール (母衣小学校)
- 7月25日(土) 里山自然塾 (ふるさと森林公園)
- 10月 9日(金) みーもスクール (ふるさと森林公園)
- 12月 4日(金) みーもスクール (安来市立布部小学校)
- 12月16日(水) 森のデザイン学校 (出雲商業高校)

### ② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

#### ●6月21日(日) 楽山公園再生イベント(楽山公園)

楽山公園において、園内自然観察会と竹を使ったバームクーヘンづくりを実施した。自然観察会では、「樹木マップ」を見ながら園内を散策し、普段何気なく見ている樹木にも多くの種類や特徴があることについて説明があった。バームクーヘンは、竹の周囲に生地を付けて、焚き火で焼いて作るもので、身近な自然の材料からお菓子を作る体験ができるものだった。子ども参加者が自然や樹木に感心を持つ良い機会になっていると感じた。



自然観察会、講師による説明



竹に生地を流しかけているところ

●7月 7日(火)みーもスクール(母衣小学校)

松江市立母衣小学校の5年生70名を対象として「みーもスクール」を実施した。「みーもスクール」は森と触れ合うことをとおして、森の大切さを理解するとともに、郷土を愛する心を育むことを目的として開講されている。今回、母衣小学校の児童は「森林保全の大切さ」についての講義と、間伐材を利用した「ふくろうのキーホルダー」づくりを学んだ。講義では森林と人との関わりについて考え、クイズなどを通して里山保全の大切さについて理解を深めた。ふくろうのキーホルダーは、自分だけのオリジナル作品となるので、児童たちは友達と相談しながら楽しんで作成していた。



森林保全・里山についての講義



ふくろうのキーホルダー

●7月25日(土)里山自然塾(ふるさと森林公園)

もりふれ倶楽部主催で「竹と竹藪の秘密」と題した体験塾を開催した。竹筒ごはんの準備をして焚き火で炊いている間に、里山の竹問題や竹の生態についての講義があり、参加者と一緒に人と竹の関係を考えた。竹筒ごはんを食べた後は、竹を加工して七夕飾り(灯籠)を作成し、室内に展示して幻想的な空間を演出した。

時には森林保全上の問題となる「竹」を炊飯器やインテリアとして利活用する講義は興味深いものだった。



竹筒ごはん(栗、キノコなど)



七夕飾り(中にロウソクが入っている)

●10月 9日(金)みーもスクール(ふるさと森林公園)

松江ろう学校(小学部)の児童をふるさと森林公園に迎えて、みーもスクールを開催した。最初に園内を散策しながら、樹木について講義があり、次に飾り炭作りを体験した。飾り炭は

生徒が自分で選んだ樹木や葉、木の実を焚き火で燻して作成した。炭火を利用して「たき火クッキー」も作り、お弁当の後に試食した。午後は、間伐材のキーホルダーを作成し、児童それぞれがお土産として持ち帰った。



葉の飾り炭



キーホルダーづくりの様子

●12月 4日(金)みーもスクール(安来市立布部小学校)

安来市立布部小学校で、みーもスクールを開催した。「里山と人との関わり」について講義があった後、飾り炭作りを体験した。雪の降る寒い日だったが、児童たちは焚き火の周りに集まって話をしながら完成を待っていた。飾り炭作りの後は、シイタケの植菌体験をして、ホダ木を組み、来年秋の収穫を楽しみに待つこととなった。



木の実、枝の飾り炭



シイタケ植菌方法の説

●12月16日(水)森のデザイン学校 (出雲商業高校)

出雲商業高校デザイン科の3年生に対して、「森のデザイン学校」を開催した。まず、もりふれ倶楽部の皆さんと一緒に樹木を伐採して「学校林」の整備と、シイタケ植菌用のホダ木作りを実施した。ホダ木ができた後は、教室で森林保全、シイタケ栽培に関する講義が行われた。講義後、「学校林」に移動して生徒と一緒にシイタケの植菌を実施し、ホダ木を組んでシイタケ栽培場を整備した。



「学校林」整備の様子



シイタケ植菌の方法を説明

### ③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

最初にもりふれ倶楽部を訪問し、みーもスクール等のイベントの予定を伺った時には、活動の多さと種類に驚きました。ほぼ毎日のように、体験活動や学校訪問を実施しておられ、その熱心な活動には頭が下がる思いでした。各種の活動は、自然を身近に感じてもらえるよう創意工夫されており、参加者へのきめ細やかな対応が実現できていると感じました。

今回、写真記録や参加者の誘導、各種準備(薪からの焚き火おこし、樹木の伐採、ホダ木づくり)など様々なことをお手伝いさせていただきました。参加する中で、里山の大切さ、森林に人の手を入れることの重要さがわかり、人工林での間伐の必要性やエネルギー革命前の里山と人との関わり、竹のもたらし問題など、普段の業務とは分野の違う知識を得ることができました。各種活動の補助として参加しましたが、参加者の方と一緒に学べる貴重な経験となりました。

参加者の方が楽しみながら自然や森林の大切さを理解できるように、体験活動の内容に様々な工夫しておられることも印象的でした。自然と人との関わり・森林資源について講義で学び、薪などの自然エネルギーを使って竹筒ごはんや竹バームクーヘンを作るなど、講義内容と体験メニューがリンクしているため、一層興味と理解が進むと思います。

また、もりふれ倶楽部ではみーもスクールなど、子どもが森林に興味を持つような講義や体験を多く実施しておられます。幼少期に興味を持てば、将来的に森林保全に関わる仕事、活動に参加することも期待でき、啓発・普及効果が高いだろうと感じました。

今回の研修で、県民の皆さまと一緒に活動し、声を直接聞けたこと、もりふれ倶楽部の皆さまのお話を聞けたこと、森林や里山という視点で島根県のことを考えることができたことは、大変貴重な経験になりました。今後、得た経験や考え方を活かして行きたいと思います。

最後に、もりふれ倶楽部関係者の皆さまには、いつも暖かく受け入れていただき、お世話になりました。ありがとうございました。また、イベントに参加したいと思います。